

# Baytown Core

## 計画設計調整者の立場から

土田旭（都市環境研究所）

念願の幕張ベイタウン・コア施設ができあがって、なによりである。幕張ベイタウンの計画設計調整に携った当初から、この街にふさわしい施設はどうあるべきか自分なりに考えてきたのだが、その半分がここに実現した。半分というのは、街の中にあるべきコミュニティのための業務施設やサービス施設あるいは居住地指向型の小事務所など、単なる住宅地に終らせない機能が是非必要と思うからである。

ここでちょっと触れておくと、計画設計調整者というのは、企業庁が創設した街づくりのシステムで、個々の事業者や設計者を超えて、街区レベルから地区レベルの都市環境デザインについて目配りをし、調整をする任を持たされており、今回のコミュニティ・コア街区は11番街や12番街を含めて私が担当することになっていた地区である。

今回完成したコアにたいする計画設計調整者としての役割は、大きくは3つあった。まず第1は、住民の皆さんのさまざまな希望を設計条件としてまとめること、第2は設計者を決める（推薦する）こと、第3は、街区レベルでのデザイン方針を設計者と協議して確定することであった。

設計条件についてはコア研の皆さんをはじめ、さまざまなかたちで活動していた皆さんもその経緯をご存じのことと思う。設計者については、私を含めて7名いる計画設計調整者の方々に若干名ずつ建築家を推薦してもらうことにし、その条件として設計事務所を主催していること、40歳台であることの2つとした。

その結果、リストアップされたおよそ10名の建築家の一人一人に面接をして、幕張ベイタウンのデザインやコア施設についての考え方をうかがった。最終的に高谷さんを設計者として選ばせてもらい、設計をお願いすることになった。彼とは前からの知り合いでもあり、都市や地区のデザインを経験しておられて、気安く意見交換をすることができた。設計から工事の過程で設計者は無論のこと、企業庁の担当の方々にも頑張っていたいただき、なかなか立派な拠

## 第2部 私の思い

りどころができたのではないかと考えている。

建物は使いこむことによって空間として味わいが生れ、欠陥も補われていく。今後住民の皆さん方の積極的参加の下に、創意工夫も含めて巧みな運営がなされ、名実ともに街のコアとなることを期待したい。

### 「幕張ベイタウン・コア」開館に寄せて

尾辻信宣（元都市環境研究所、現 Glocal Vision 代表、福岡県在住）

開館おめでとうございます。私は都市環境研究所土田旭氏の下で「幕張ベイタウン・コア」の基本計画策定と都市デザイン調整を担当しました。現在は、九州・福岡の地で昨年からの都市計画+建築+まちづくりに関わるコンサルタントを始めたところです。

私が「コア」に携わった頃を思い浮かべると、当時は、施設の床面積・用途・利用勝手が争点となり、特に床面積について、コア研を代表とする住民、千葉県企業庁、千葉市、ベイタウンの都市デザイン調整者で

もある土田旭氏の4者間での攻防は、（多少大げさですが）凄まじかったように記憶しています。

今年の1月12日に設計者の高谷時彦氏の案内で、竣工前の「コア」を見させていただいたのですが、他に例を見ないようなグレードの高い施設になったと感嘆させられました。これも一重に建設当初から参加された、コア研を中心とするベイタウン住民の方々が勝ち取った成果なのだなと、驚愕の思いをかみしめた次第です。

一方、争点となった床面積等について、施設建設者である千葉県企業庁と施設管理者となる千葉市の当時の行政担当者の方々は、従来の画一的な行政サービスから一歩踏み出した英断をよくぞ貫徹してくれたと、2年余過ぎた今、熱く感じずにはおれません。

私は「コア」計画・設計の中で、ベイタウンのまちづくりの一翼を担っている「都市デザイン会議・WS」関係者等を含めると数百人もの人と出会ったことになります。これだけの施設を数多くの人達とともに作り上げることができたことは、私の今後の糧となるでしょうし、また住民主導によるコア建設は、これ



「コミュニティ・コア設計者と語る会」（2000年4月2日）。コア設計者に決まった高谷氏を招いて、設計前に住民と設計者が語り合った。

からのまちづくりの先駆的な事例となると確信しています。

九州の地からではありますが、ベイタウン＆「コア」のサポーターとして微力ながら今後も応援させていただきたいと思っております。

### それぞれの知恵の結集

千賀 坦 (当時・企業庁地域整備部幕張新都心建設課課長補佐、  
現在・企業庁地域整備部内陸建設課副課長)

それぞれの立場でイメージする「コア」。利用する住民、施設の管理者、設計計画者、事業者が一同で意見を出し合う『整備検討会』。

期待が大きいだけにまとめることができるのだろうか、不安の内に開催された。案の定意見は噛合わない。「コアを熱く語る」計画設計調整者、「他地区とのバランス、条例が」と管理者、「前例がない、施設の規模も変えられないでは、皆の要望をどう詰めていけばいいのか」と、思わず語気が強まる住民代表。「限られた予算、施設の管理は、建設の期限は」。形が見えない進行に建設室長は頭を抱える。そんなスタートであった。

コアの完成は、休日返上、深夜の討議、関係者の皆さんの協力と理解があつての賜物であり、それぞれの知恵の結集によりなし得たものである。私に与えられたベイタウンの住民参加型によるコア建設は、これからの「ものづくり」に対し、その得られたものの多さに感謝したい。

### 住民参加でつくりあげたすばらしい施設

篠原重雄 (当時・千葉市企画調整局政策調整課長、現在・千葉市国際交流協会常務理事兼事務局長)

幕張ベイタウン・コアのオープン、誠に、おめでとうございます。関係された皆様方の熱意と努力に、改めて、感謝と敬意を表します。「行政は、のんびり、何をやっているんですか!」「こんなことでは、いつになったら具体的な議論ができるか、見当がつかない」。ベイタウン住民代表の発言に、居合わせた千葉

県企業庁、千葉市役所の関係者に緊張した雰囲気が漂う・・・。

厳しい財政状況のなか、住民の皆様からの叱咤激励を受けながら、プランを検討してきたことが、昨日の事のように鮮やかに蘇ります。

お蔭様で、共にいい汗をかいて、いい時間を共有できたと感じています。この幕張ベイタウン・コアは、住民の皆様が共感し活用していただけてこそ、価値が出るものと思っております。住民参加でつくりあげたすばらしい施設が、住民の皆様にも永く愛されることを祈っています。

### 苦勞して育てた我が子を嫁にやる親の気持ちです

加藤忠雄 (千葉県企業庁地域整備部事業管理課主幹)

幕張ベイタウン・コアは、当初の計画段階から住民参加の形をとってきており、完成後は千葉市が運営・管理する施設であるため、住民代表の皆さん、千葉市など関係機関との連絡調整に配慮が必要であり、常に神経を張り詰めてなければならない仕事でした。

しかも建物本体については着工後、実質8カ月の限られた期間の中で、完成しなければならないという厳しい条件がありました。それだけに工事が工期内に無事に完成できたことは、建設に携わった一人として、ほっとしたというのが実感です。それも計画から施工まで、施設の建設にかかわったすべての方々の努力と苦勞の結晶とあらためて感謝し、お礼申し上げます。

しかし、コアは誕生しましたが、機能するのはこれからです。施設もメンテナンスによって大きくその寿命と信頼性も変わってきます。今後は維持管理についても計画的に行っていただきたいと、老婆ながら思っています。

また利用の際には「みんなの施設」として皆さんに愛され、親しまれ、大いに活用され、いつまでもベイタウンの中核施設として、その姿を保ちつづけられるように、大切に扱っていただきたいと思っています。

苦勞して育てた我が子を嫁にやる親の気持ちで引き渡す。

丈夫で皆に愛されることを祈念しつつ。

## 登庁前からコアの会議に参加した

津村政明（千葉県企業庁地域整備部事業管理課副主幹）

コアとの出会いは、なんと企業庁への赴任が決まったが、まだ登庁していない平成12年4月2日の日曜日でした。その日は、コアの敷地内にあった「かるがも館」で、「設計者と語る会」が開催され、自治会連合会やコア研究会の方々などベイトウン住民と設計者のコアに対する考え方を聞くとともに、住民の施設に対する要望などについて意見交換しました。

参加された方々のコアに寄せる期待の大きさ、ホールに対するさまざまな意見、特に音楽に対する関心の高さが印象に残りました。

設計に入ってから「決められた条件内でいかにして必要とされる各室を適切な面積で割り振り、有機的に結合させ最良の施設を作る」ことに狙いを絞り、エンドユーザーである住民の皆様や、施設の管理運営をする千葉市関係各課と協議・調整の場を何度も持ち、慎重に作業を進めました。特に「多目的に使えるホールにするには、平面・断面形状や音響性能、電気音響、舞台装置をそのようにしたらよいか」ということに、一番苦心したことが、現在もまるで昨日のこのように思い出されます。

コアを作るためにご協力いただいた住民の皆様、千葉市関係各課の方々、設計者およびコア建設工事を請け負った各社の方々に、この場をお借りてお礼を申し上げます。

## コアは「モモ」である

中山勝司（当時・千葉市企画調整局政策調整課主査）  
現在・千葉市経済農政局農政部農政課補佐

「幕張ベイトウン・コア」が開設されたことを、心からお喜び申し上げます。

施設計画の策定に当たり、私とは1年間という短い期間でしたが、役員をはじめとする関係者の皆様方にご協力いただきましたことを、改めてお礼申し上げます。

当時は振り返り、私が皆様とお会いした印象を申し

上げますと、時間どろぼうに盗まれた時間を人間に取り戻すために戦う女の子の物語に登場する、その主人公「モモ」（ミヒヤエル・エンデ作）のようでした。

物語では、誰もが「モモ」と話すと、楽しく幸せな気持ちになれます。私も皆様とお会いしているとき、同じように楽しく、幸せな気持ちになりました。

きっと忙しい仕事の合間を縫いながらも、計画作りに参加された姿は、子どもからお年寄りまでの生活を考え、思いやりのある時間を使い、安らぎの場を住む人に提供するために戦う、大人になった「モノ」の姿であったからだと思います。

そして住民の力により、住む人を育む「幕張ベイトウン・コア」が完成されたものと思います。

今後は「幕張ベイトウン・コア」が「モモ」となり、

### コミュニティコアの歩み（これまでの経緯）

#### ベイトウン計画段階での構想（ハブル期の構想）

1995年 幕張ベイトウン誕生（1～6番街入居）

1997年 住民によるコミュニティコア研究会発足

97年秋 コミュニティコア事業化研究会スタート

（企業庁、市役所、住民、ビジネス御ほかによる）

1998年 事業化研究会まとめ

「早期施設として公民館、図書館、郵便局、多目的スペースを建設する」（ハブル構想前域、一転、最小限の施設へ）

98～99 企業庁と市役所の管理問題をめぐる折衝

q 企業庁が建築し、公民館などは店子として入居する  
w 企業庁が建築し、その後の建物管理は市役所が行う  
→1年間の協議の末wで決着

99年秋 基本計画検討会スタート

（郵便局はプロムナードへ、子供レーム入居）

00年 基本計画検討会まとめ

「施設面積1950平方メートル、コア運営を住民参加も含めて検討する」

3～6月 基本設計（施設面積1988平方メートル）

6月 「備品は市役所の予算で整備する」との方針決定

7～12 実施設計

（住民による個別委員会発足）  
ホール音響選定委員会・ピアノ選定委員会

コアの歩みは常に地域に公開されてきた。図は地域誌に掲載された「コアの歩み」（2000年10月）。

利用者にとって楽しく過ごせる場になりますことをお願い申し上げます。

「幕張ベイタウン・コア」建設の関係者のご努力、ご協力に重ねてお礼を申し上げますとともに、幕張ベイタウン在住の皆様のご健勝・ご繁栄をお祈り致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

### 趣味と人脈を広げられる新しい発見の場に！

北村直子 (パティオス21番街、  
tecchan@aa.e-mansion.com)

特定サークルの会員だけが利用するところではなく、趣味・特技を通して幅広い人たちと楽しめる開かれたサークル活動が展開されることを期待しています。一回でも参加すれば、新しい技術と素敵な作品が持って帰れるような気軽なプランを、各サークルが設ければ新たな楽しみも見つかるでしょうし、彩り多い人生が送れるように思います。

私は松戸市の成人講座やNHK文化センターでトールペイントを教えたり、Tシャツに手描きしてお店に卸す仕事をしています。ベイタウンではこれらを趣味として一緒に楽しめるペイント仲間が欲しいと考えています。紙、木、布、瓶、缶、爪 (!?) など自由な素材に水彩、アクリル、エナメル、オイル絵の具などいろいろ使い、トールペイントならではのテクニックを駆使して、みんなで楽しくおしゃべりしながら描けるサークルを作るつもりです。

極めたい方には講師免状取得コースを指導しますが、初めての方でも簡単に楽しめるプランをいろいろと準備しています。子供連れの方にはサークル中に保育を頼み、子供達も保母さんと一緒に楽しい時間が過ごせるようにするつもりです。興味のある方は是非一度ご連絡ください。さまざまな手法を一緒に楽しみましょう！

私はどうしても描くこと中心の毎日を送っていますが、ほかの趣味やサークルにもとても興味があります。コアに行けばいろいろな新しい発見がある！楽しみが見つかる！人脈も広がる！。こういう場所になればいいなあと熱望しています。

### さあ！ 今からベイタウン・コアを造りましょう

上杉敬郎 (パティオス16番街、コアの設計図を初めて提出。  
現在・ローズベイハーツ経営者)

大人達にどんな町に住みたいかと聞けば、先ず初めに漠然と「暮らしやすい町」と言う言葉が当たり前に戻り、ならばどんな町が暮らしやすい町なのかと聞けば、はたと考え込み。どこかで聞いたような代わり映えのない回答を、その苦渋な様相の中で絞り出す。そんな光景がおおよその見当として浮かんでくる。

しかし同じ事を子供達に聞いたら、色々な答えがいきなり返ってくるに違いない。そこには色や動きとともに様々な情景も含めた町の姿を、彼らなりの素直な言葉や表現が、つぎつぎと我々の前で鮮やかに映し出してくれる事だろう。しかし、だからと言って彼らが常日頃からそれらの事を考えているからなのではなくて、きっと大人達がなくした子供達だけの天性がそうさせる力を創り出すのだろう。

さて、この頃は「まち」と言う文字を「街」と表す事が多い。広辞苑で調べてみると、街も町も同じ意味としてあるようだ、しかし、その違いはきっと「街区」の様に使われる「がい」と言う言い方がこの「街」の字の持っている意味を何とはなく表しているのではないだろうか。人々の暮らしぶりやその人間臭ささえ感じとれる「町」と比べて、いかにも都市計画的な機能の上に成り立っている様な意味合いや、「日本人街」等と使われる区分的な言い回しに使われているように、それを無機質なものとして感じとってしまうのは私だけではないと思うが。

何時からなのだろう、「僕らの町」が私たち大人の中で「街」になってしまったのは。ベイタウンが単なる都市機能の一片としての価値の街なのか、はたまた我々の子供達の故郷としての町となるのかを、ここに住む大人達はどのような風に方向付けていくのだろうか。

今、ハードとしての街はあらかたそろってきたようだ、否、「いやいやまだまだ、あれもこれも、そろってはいませんよ」との声も聞こえてきそうだが、念願の「コミュニティーコア」も竣工した事だし・・・。しかし、その機能を与えられた「街」の人達が、いかにしてそれらを使いこなして行くかと言うことが、コ

アを単なる箱にしてしまうのか別な物とするのか、すなわち単なる建物から「おらが町の中心」へと私たちが造り込んでいかなければ本当の「コミュニティーコア」として完成はしていないと思うが、どうだろう。

最後に「ベイトウン」と言う言葉の響きの中に、故郷の「町」と言う響きを感じているのは私一人だけだろうか、子供達に聞いてみたい。(コア研のみなさま、解散はまだまだしてはこまりますよー)

### 子ども達が自慢できるコアに

井上 広恵 (わくわくおはなし会)

このまちに入居した頃には空っぽだったところに、ガラス張りのすてきな建物が姿をあらわしました。公民館に図書館、子どもルーム。私達、打瀬の住人が7年間待ちに待った《幕張ベイトウン・コア》ができたのです！。とてもわくわくします。

《コア》にはその名の通り、このまちの中核になってほしいです。そして子どもにも、大人にも集まりやすい、何かをしてみたい場になることを期待します。

私が2年前から参加している「わくわくおはなし会」では、13人の仲間と読み聞かせの勉強をし、打瀬の子ども達にお話のプレゼントをしてきました。そんな私達が《コア》を楽しくするためにお手伝いできることは、本の読み聞かせです。図書館もでき、打瀬の子ども達に本がもっと身近な環境になります。そこで、子ども達が本の世界に触れる機会をたくさんつくり、いっしょに楽しんでいけるよう、今みんなで準備しています。

将来、打瀬の子ども達が「ぼく達が育ったまちには楽しい《コア》があるんだ。」と自慢できるような、そんな《コア》作りに参加していきたいです。

### 私のしたかったことを、この街でやってみよう！

青木幸子 (ミラリオ、ベイトウンシネマクラブ会員)

この街に引っ越してくる事は、はっきりいって反対

だった。勤務地からはいっそう遠くなるだろうし、東京都民から千葉市民になってしまうのもなんとなくイヤだった。

しかし、この街を一度下見している姉の猛烈な薦めもあって、「カルフル」「アウトレットモール」見物、そして「豪華ホテルランチ」という甘い言葉に誘われて、JR海浜幕張駅に降り立つと、ホームからは何やら近未来的な美しいマンション群が公園の向こうに広がっているのが見えた。

さらに反対側に目をやると、高層のオフィスビル群・・・。「おお！ 結構いいかもしれない」。しかし、そんな気持ちとは反対に「駅から遠いジャン！。夜道は歩けるの？。バスなんて面倒！」なんて文句をいながら海浜公園を横切ると、もう目の前には茶色と黄色の美しい建物（これはCPWですね）があった。

通り（美浜プロムナードですね）沿いを歩いていくと、まるでヨーロッパのような石畳、道の両側にはかわいいレストラン、カフェ、そしてジェラート屋さん。ワクワクしてきた！。「三井のリハウス」で、賃貸物件の資料を一式もらい、そこでもらった地図を片手に街をざっと歩いた後、私達3人は顔を見合わせて、「この街に絶対住もう！」

それからたったの2カ月！。私達は猛スピードで引越しまつわる様々の処理を済ませ、この街の住人となった。

住み始めてからも、この街は私達の期待を裏切らなかった。妹が探してきたHP（ベイトウンネット・コムですね）の掲示板（ふれあい広場ですね）に一つコメントをかきこむと、様々な方からウェルカムの言葉と、親切なアドバイスを頂いた。

これまでの東京賃貸マンション生活ではみつけれなかった、愛国心ならぬ愛街心みたいなものがムクムクと芽生え、「私のしたかったことを、この街で、他の誰かと一緒にやってみよう！」という気持ちになった。

そして、土曜の朝のコア研究会の会議に参加、クリスマスコンサートのお手伝いなど、「私だけではなく、この街にかかわるすべての人達が誰かと何かをしたかったら、活動に参加したり、企画したり、実行したりする事できる」ということを実感した。幕張ベイトウン・コアはそういう場になるだろう。

コアの建物は、どんどんできてきてきいる。この街の風景にふさわしい、すばらしく美しい施設だ。これからがまさに私達住民の出番である。どのようにコアを利用していか。多分、いや絶対に難しいことではないだろう。

### 「好き」だという力を目に見える形に

青木尚子（ミラリオ、ペイタウンシネマクラブ会員）

この街に引っ越してきて4カ月が経ちました。初めてこの街を目にしたときの「ここから何か楽しいことが起きるに違いない」という、あのどきどきした気持ちのまま、知らず知らずのうちに時間が過ぎていきました。

この期待を裏切らないのは、コミュニティ活動を住民主体でデザインしていくチャンスを住民ひとりひとりが持っているからだと思っています。

実は、私のまわりにとっても気になる男性がいます。その人は香港の大スターです。彼を支える日本のファンの組織的な動向にはいつも感心させられます。好きでやること、応援したい誰かのためにやること、自分たちで率先してやること、そういった活動はたとえ最

初は草の根であっても大きな力を発揮させるということを知っています。

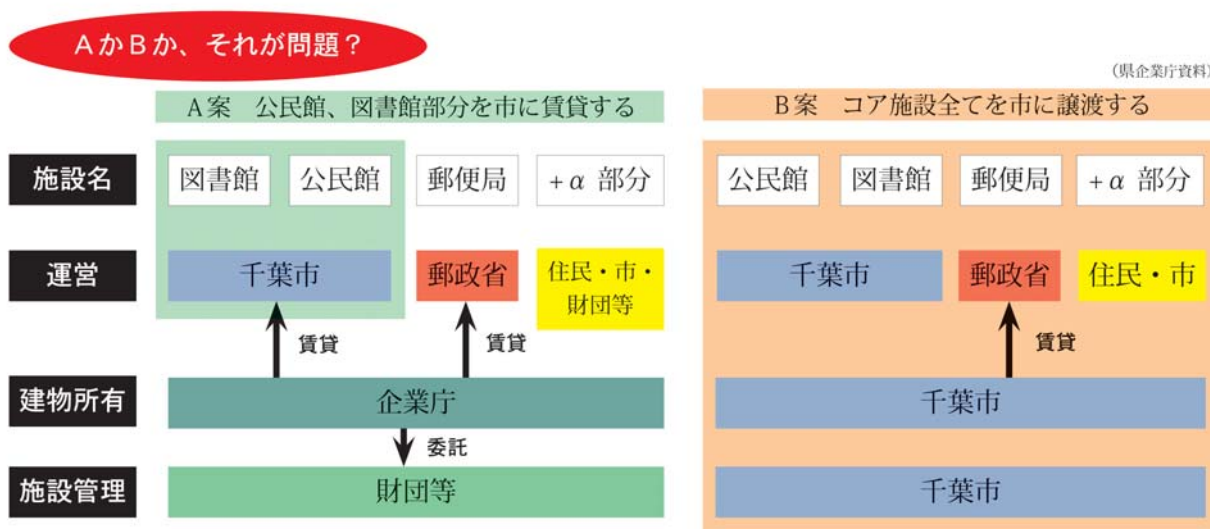
だから着々と完成に近づいている立派なペイタウン・コアの建物を見るたびに、ここを基盤により幅広い活動ができるペイタウンの住民になった幸運に、感謝せずにはいられない日々を送っているのです。

どのような活動にしる、原点は「好きなもの同士の集まり」です。

私が応援している香港スターの例をとると、主にインターネットを媒体としたコミュニケーションでつながっているファンの中には、お互い顔が見えないということもあります。活動時間に時差があることもあります。時には外国語の知識を必要とすることもあります。そんな障害を乗り越えても、好きだという力がファンサイトを運営する原動力になったり、あるいは、好きだというだけの結束がビジネスを成立させたりしています。

コアでの活動の利点は、顔を知った近隣住民のための活動であるため密なコミュニケーションができること、利潤追求を目的としないため、個人の利益などの不平等が生まれないこと、市生涯学習振興課というスポンサーのバックアップがあることだと思います。

私は、コア研究会のお手伝いスタッフとして、まず、多くの住民の皆さんの「好き」集めたいと思っています



コアの運営をめぐる出された2つの案の検討図。A案かB案かで検討がなされた。

す。そして「好き」だという力を目に見える形にしてさしあげられたら、と考えています。

コミュニティ活動を住民が主導していくのは当たり前のようにありながら、その先駆者となるモデルがなかなか見当たらなかったのが現状かと思っています。そんな中、この画期的なプロジェクトに携わることができて、本当によかったと思っています。この活動が全国のお手本となるよう、いろいろなアイデアを磨き合いながら、住民の豊かな生活を支えるプロジェクトになればいいと願っています。

### ふれあい、うるおい、ぬくもりを

松浦大造（グランパティオス公園西の街、子どもルーム父母会）

待ちに待った幕張ベイタウン・コアの開館です。

コアで繰り広げられるであろう思い思いの自由な活動は、生まれて間もないこの街に、たくさんのふれあいと、うるおいと、ぬくもりを加え、ここで暮らし、

学び、働くひとびとのふるさととしての熟成を一層進めていくものと思います。

これまで、数多くの意見のすり合わせ、行政との話し合いなど、たくさんの課題を解決し、コアの建設推進に中心的に取り組んでくださった方々の真剣な様子には、本当に頭の下がる思いです。

子どもルームを利用する者である私にとっては、仕事と子育てに追われる毎日ですが、コアに子どもルームが設置されることで様々な地域の活動との接点が多く持てるのではないかと楽しみにしております。もっと地域と触れ合えれば・・・そんな期待が膨らみます。

### 想像を越えた可能性を秘めている

浪岡尊志（千葉市若葉区、コア・ホールの基本コンセプトを作成）

昨年まで住んでいたベイタウンでの5年間は特別でした。当初は整然とした街並み以外に何も無い？と思っていましたが、音楽を通じた地域の人々との出会



住民と行政が行った「第一回公民館を語る会」（2001年7月14日）。ベイタウンにふさわしい公民館の姿を模索して、この会はそのご何度も行われた。

いは驚きの連続です。1年目のベイタウンクリスマスコンサートから、昨年のピアノチャリティコンサートまで、5回ほどの音楽イベントにかかわり、今思うと、すべてコア建設のための大きな流れのなかの出来事のようにです。

最初は体育館のピアノを住民の手で小さな台車3台に乗せて運搬したり、音楽劇の途中で暗転にしたので、日が沈む時間に合わせて開演時間を設定したり……。まさに大勢の人の手づくり作業ですが、各部分ではあちこちでスペシャリストが登場しました。それぞれ仕事も生活もあり、何ヶ月もの準備は大変ですが、そこは地元の力。

私自身、中学生のはるか昔、仲間とバンドを組んで盆踊りの前座や文化祭に参加したころからのお祭り&音楽好きでした。コア建設の話聞いてホールは多目的(=無目的)ではなく、小ホールでありながら生音の音響を重視した他にはあまりないという、自然な空間を提案しました。それは演奏者にも、聴衆にも最も必要な条件の1つで、良いホールは良い演奏を生み、良い聴衆が増え、そして聴衆が演奏家を育てます。

ベイタウンのシンボルは想像を越えた可能性を秘めているかもしれません。そろそろあなたも何か一曲歌い、弾いてみましょう。来年あたりは「誰でも歌えるベイタウン合唱祭」なんて開催出来たら良いですね。小さな街の中心に小さなホールがあるという、ありそうでなかったことが実現するのですから。

## 笑顔でこんにちは

犬井千年 (パティオス4番街)

海を埋め立てて出現した千葉市美浜区。先輩格の幸町から順次開発が進み、ここ幕張にも住宅地が出来てから、7年余りが過ぎました、開発途中でオイルショックがあったり、神戸の震災があったり、高度成長のバブルがはじけたり、さまざまな波にもまれながら建設は進んでいます。

そして幕張ベイタウンのシンボルが完成しました。ある日突然ご一緒になった皆さんと、末永く朗らかに生活をエンジョイしたいという願望は誰しもが持って

いると思います。

私は入居してすぐに我が家の近くの空き地に花を植えました。そうこうしているうちに二丁目公園が出来て、自治会連合会が企業庁に花壇を設けるように要望しました、花壇の管理運営は住民で行うと宣言したのです。大変といえば大変ですが、この都会の中で自然に親しめる場所を提供してくださった企業庁さんと、当時の自治会連合会役員さんには感謝しております。

四季の移り変わりとともに満遍なく花を咲かせたいという願望と、実際のギャップはあるのですが、いつの日にか人々の出会いが深まり、花壇を世話するメンバーが増えれば目的に近づくのだろう、と夢見ています。

## 未だ見ぬ子へ

内田康文 (パティオス4番街、前自治会連合会長)

コアに対する思いを表現すると、まさにこれから生まれようとする子供に対する親の気持ちのようなものかなあ。元気に産声を上げるだろうか。みんなに優しく素直な子供に育つだろうか。グレたりしないだろうか…。建設途中のためコアの中に入って様子を見ることもかなわず、ただただ心配な臨月を迎えた心境です。

仕事柄多くのホール施設を見てきましたが、こんな気持ちは初めてです。「近所にできる」ということだけではないように感じます。自分の住む街のコアだから立ち上げを実体験したい。そして何かお手伝いしたい。それが「コアを考える会」や「開館イベントを考える会」へと足を向かわせたのでしょう。

振り返ってみると、床面積を巡る企業庁担当者や上層部の攻防や、完成後の運営主体について企業庁と市役所の駆け引きなどの調整にご苦労されたようです。特に高谷先生にはこれまで持っていた設計者のイメージを完全に打ち砕かれました。住民に対して不器用なくらい真面目に接していただいた姿に感銘を受けました。頭をかきむしる姿を何度目にしたことでしょうか。

とにかく私(たち)のコアには、順調に育ってくださることを望むだけです。私には子供がいないのです

が、親の気持ちを少しだけ体験できたような貴重な出来事でした。全ての関係者の皆様、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

### 誰にでも居場所となるように

大竹 亮 (元・パティオス13番街在住、元まちづくり研究会、現在は福岡市在住)

コミュニティ・コア研究会は、2年前に初めて私が参加したベイタウンの地域活動です。いま思えば、その後、フォーラム分科会、まちづくり研究会と、どんどん足を突っ込むキッカケでした。当日は、かるがも館で設計者の話を聞く会が開かれ、高谷先生の「コアで行われる様々な活動が、相互につながりを持ってるように」という主旨のお話に共感したのを憶えています。

以前に私が住んでいた茨城県水戸市には、有名な水戸芸術館（磯崎新設計、吉田秀和館長）があり、円形劇場、室内楽ホール、現代美術ギャラリーからなる独創的な建物が、芝生の中庭を囲んでいました。中庭は誰でもいつでも出入り、通り抜けができ、噴水の下での水遊び、読書、演劇の練習、フリーマーケット、結婚式、時には現代アートの展示スペースにも利用されます。わが家も、散歩に、子どもの遊びに、テラスのレストランに、ミュージアムショップに、無料コンサートにと、ずいぶん立ち寄りました。世界最高レベルの芸術活動の場が、同時に市民だれにも開放された自由の場だったのです。

このベイタウンには、居場所が少ないと感じます。塀のない学校や住棟の中庭、お洒落な店舗は多いのですが、用もなくただ居られる場所、型にはまらない何かを仕掛ける場所が少ないのです。今はなき公団のかるがも館は、それに近い場所でした。大きな街の模型を見ながら、よく会合をやりましたね。

すばらしい設計による新しいコアが、ぜひこういうスペースとして使いこなされることを願います。コアの中庭と公園が仕切りなくつながり、つねに開かれた広場であってほしい。お天気の良い日には、図書館の本をテラスでゆっくり読みたい。公民館、図書館、子どもルームという役割をしっかりと果たすと同時に、

その3つに直接関係なくても、いつでも出入りでき、自由に何かをできるスペースであってほしい。絶対に壁を作らないで。この街の誰にでも、素敵な居場所ができるように・・・。

### 図書館分館のお手伝いと気の早い話

村岡英裕 (グランパティオス公園東の街、まちづくり研究会)

私は99年夏にベイタウン住民になりました。コア研会議に参加させていただいたのは、確かその年の11月頃ではなかったかと思います。そのときの話題の1つはコアをどこに建設するかというゾーニングの問題でした。

企業庁では現在のコアの場所を前から決定していたようですが、コア研のメンバーは、ベイタウンの中心に位置すると思われる、現在のコアの場所のとなり、つまり駐車場などのある場所に建設すべきであるとの意見でした。「皆さんはどう思いますか」と下川さんが聞きましたので、私は恐る恐る手を挙げてこう申しました。

「なるほど皆さんの希望である場所はベイタウンの中心ですが、だからこそ、そこにはもっと象徴的なものを造ってもよいかもしれない。現在、建設を考えている建物は住民の生活上必要な施設ということですから、企業庁の予定している場所で良いのでは？」

とにかく、そんな意見を述べた後で、コア研とのおつきあいが始まりました。あまり熱心な参加者ではなかったのですが、この成り行きで、図書館分館に入れるべき本についての住民の希望をまとめたのが、唯一の仕事だったでしょうか。企業庁や企業に保管されているベイタウン開発資料コーナー、街づくり関連書コーナー、などを設置していただけることになり、とりあえず他の市立図書館から借りられる本も含めると住民が希望した八割の本はコアの図書分館で読めるようです。

心残りは、外国人の方々が中心になって積極的に希望を出してくださった洋書や子供のための各国の教科書などが入れられなかったことです。今後、国際的なベイタウンの証として、そうした本も分館に入ると素

晴らしいと思います。

さて、最後にベイトウンの中心として残されることになった現在のコアの隣地のことですが、将来、どのように使われることになるのでしょうか。私には2つの希望があります。1つは外から人がやってくる華やかな施設。その施設はパティオスを持っていて、そこにコアの素晴らしいホールと対照的なすり鉢上の野外劇場をつくるというのはどうでしょう。

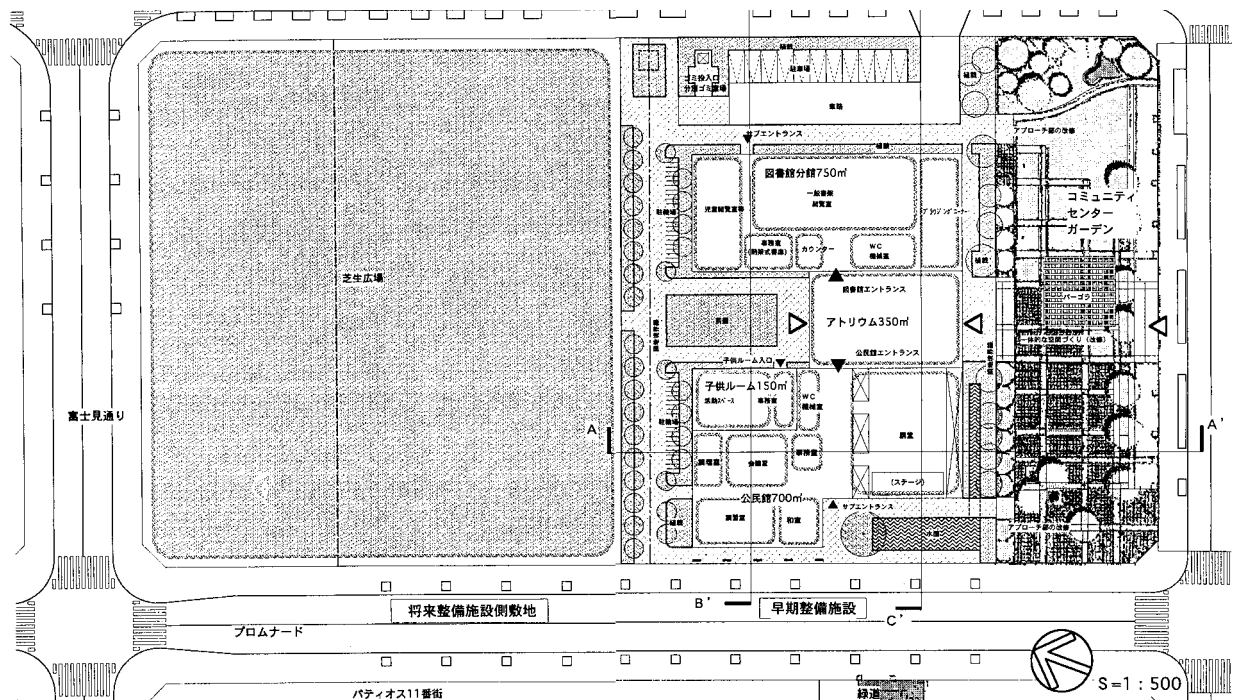
もう1つは、じつは中心地には何も造らず、大きな木のある気持ちの良い公園にするというもの。中心だからこそ何もつukらない、というのも1つの勇氣ある選択肢かと思ひます。にぎわいのある中心とするか、閑静な田園都市の中心とするか、このへん、コア完成後の私たちベイトウン居住者に残された宿題のようにも思ひます。

## コアは住民自治のシンボルだ

松村守康（パティオス10番街、ベイトウンニュース、寺子屋）

いよいよベイトウン・コアが始動する。コア計画が企業庁から住民に示されたのは今から5年前。当時ベイトウンでは住民による自治組織の設立を目指し、住民間で活発な議論がなされていた。旧来の自治会組織ではない、自分たちの街のことは自分たちで決める、そのための組織はどうあるべきか。

いままでの公民館とはちがったものをつくりたい。新しい「コミュニティコア」の設計にぜひ住民の声を、この呼びかけが企業庁から出されたとき、自治組織の設立に奔走していたメンバーは驚いた。行政が自分たちで作る建物に住民の声を反映させようとしている。やはり、この街には他の街にはない新しい手法が可能



ベイトウンニュース（2000年2月号）に掲載されたコアの基本計画図。千葉市、企業庁、住民の三者が同じテーブルについて検討した案を具体化したもの。

なのではないか。

この期待感は、その後のコミュニティコア研究会の活動に大きな刺激を与えた。行政と住民が対等に議論しながらつくるコア。研究会への参加呼びかけには予想をはるかに越える多くの住民が集まり、以後、この研究会は「コア研」の名称で、この街の自治のスタイルを形作っていった。

当時の企業庁が本気でベイトアウンの運営に住民を参画させようとしていたかどうかは不明である。しかし、その後のコア研の活動は明らかに街のことは住民で決めるべきだ、という住民の声を代弁して活動した。ベイトアウン・コアの完成は、その一步が達成されたことの証であり、これからもつづく住民自治の動きのさきがけである。コアは住民自治のシンボルだ。

### 音響重視の多目的ホール？！

今川大介(グランパティオス公園西の街、ベイトアウン中年バンド。  
コアホールの音響整備に尽力)

2年前の春。ベイトアウンに住まいを移して間もないある日、コア研主催の集會にちょっとした興味本位で出席してみた。「音響重視の多目的ホールが出来る」。そんな話題の會合で、ふと「音響重視?」「多目的?」という言葉に疑問を感じました。日本全国にこのようなコンセプトを持ったホールは各地方自治体単位で存在しているが、竣工後、非常に閑散とした所が多いと、ある雑誌の記事で読んだことがあった。

多目的がゆえに焦点が定まらず無目的となり、結局、使えないホールとなったり、演目の供給が少なく稼働率が低く閑散となる。そんな記事を思い出した事がきっかけで、幕張ベイトアウンに出来るホールのコンセプトの洗い出し作業を行うことになりました。過去の経緯、住民の思い、近隣に重複した施設はないか・・・等々の情報を収集し、方向性を喧喧諤諤しながら確認していきました。

とにかく驚いたのが、プロ・アマ共に音楽に関わっている方が非常に多いことでした。将来の状況はどうなるかわかりませんが、万人が満足されるとは思いません。しかし、このようなプロセスを経れば、少なくとも無駄な空間にはならないと思います。

これからはプレーヤー、観客、裏方となる我々地域住民が主役となり、創意、工夫をし、活気ある空間にしていきたいと思います。また、音楽や音そのものの情報発信のコアとしてこれからいろいろな試みをしていき、多くの方々と知り合いたいですね。

最後になりましたが、本建設に関わられた多くの皆様方に厚く御礼申し上げます。

### コアでまちにデビューした

茂木俊輔(パティオス7番街、コア建築研究会、ベイトアウンニュースほか)

「WANTED」。エレベーターホールにある掲示板にふと目をやると、A4のポスターに極太のゴシック体でそう書いてある。「なんだ?」とよく読むと、コミュニティ・コア建設計画の検討メンバーを募集するとの知らせだ。参加型で計画づくりを進めるやり方にはとても興味をもっていたので、検討メンバーの集まりに出てみる。

97年4月13日。日曜日の朝10時。パティオス3番街の集會所には30-40人ほどが集まっていた。

このときこそ、わたしの「まちデビュー」にほかならない。コミュニティ・コア(当時)の計画づくりに住民として参加してまちとのかかわりをもつようになったことで、まちに暮らすほかの人との出会いの場が格段にふえた。コアはわたしにとってそういう意味でとても思い出深い。

ことし2月16日、ベイトアウンニュースの取材で開館前の幕張ベイトアウン・コアを設計者の案内でひと巡りした。内と外、上と下といった異なる空間の間につながりを重ねているなあ、出会いの場にもってこいだ、と感じた。アトリウムや調理室などからすぐ外に出られる造りとか、ガラス張りが多いので見通しがきくとか。コアで繰り広げられるいろんな活動が互いに、視線や会話や行き来を通じてうちとけあえる工夫がある。

ベイトアウン内外を問わず、たくさんの人にここを訪れてほしい。そして、たくさんの新しい出会いがここで生まれるといい。

## その名の通りに住民同士の活動拠点に

岩崎喜久子（セントラル・パーク・ウエスト、図書館を考える会）

幕張ベイタウン・コアが開館します。これまで幾年にもわたって「街作り」に携わってこられた成果であり、ベイタウン自治会連合会の皆様方に心から拍手を送ります。

私は東京海上新都心ビルに足を運んだ帰り道に、ベイタウン10番街前の「かるがも館」を訪ねて、そこでいただいたパンフレットから、この街に興味を抱きました。その後、セントラル・パークの発売が始まり、老夫婦と老犬とで2年半前に「終の棲家」と決めたこの街に移り住みました。

不思議なことに、3人の子ども達は休日になると、それぞれの住まいからこの家に帰ってくる事が多くなりました。以前の、十分な部屋数と広さのあった一戸建てのときのガランとした二人と一匹の暮らしから、一変してしまいました。子ども達もこの街に好感を抱いているからなのでしょう。

いまだ「開発途上」の街には、「こうであつたらよいのに」とさまざまな要求が出てきますが、それらを実現させるのに住民が自主的に活動している姿をさまざまな場面で目にしました。それに共感を覚えて、その活動の一部に少しだけ加わりました。お陰様でたくさん素敵な表情を持った方々と知り合え、この街がますます好きになっています。

幕張ベイタウン・コアが始動したら、その名の通りに住民同士の活動拠点になれるよう、私の出来ることを考えながら少しずつ仕掛けて行きたいと思っています。これからもどうぞ、よろしくお願ひします。

## コア開館バンザイ

小畑幸保（パティオス10番街、自治会連合会会計担当）

コアの敷地は3年前、ベイタウン祭りの時には、パーベキュー広場として大賑わいした原っぱでした。そこがボーリングされ、昨年春から基礎のくい打ち作業が始まりました。10番街の廊下から毎日、工事の進行状況が見えました。壁に完成後の予想図も描かれ

ていて、すばらしいコアが出来ることを胸をわくわくさせながら待ちました。

昨年からコア研究会の会合にも参加しました。大きなガラス張りはコアの建物を明るくし、玄関に踏み入れた瞬間、私たちの気持ちを明るくし、和ませてくれます。子ども、お母さん、シニア、住民みんなのコミュニティ形成の場になるでしょう。楽しみですね。皆さん、本当にご苦労様でした。

## <縁>が産まれる場所

下田路晴（公園東の街在住 コア開館イベントポスターデザイン ベイタウンシネマクラブ代表）

1980年、早春。15歳の<僕>は枯れた葦の間をぬって整備中だった幕張の浜にいた。高校入試に失敗した<僕>は八千代の自宅から1時間以上も自転車をコギコギ来たのだった。「絶望していた」だが、3日続けて東京湾に沈む夕陽を見たのち「何とかなるさ」という気分が産まれた。<僕>は担任の先生が探してくれた名も無き高校の2次募集に応募した。そして高校時代に出会った人達が縁となってその後、夢だった「グラフィックデザイナーになれた。

1999年、早春。<僕>は再び幕張の浜にいた。葦の群生していた場所は、21世紀の街、幕張ベイタウンになっていた。「辛い想い」は昔と同じ海が癒してくれた。「この街でもう一度やってみるか」それまで引越しながら考えた事もなかったけれど帰りにふと思ったことから<僕>はこの街の住民となった。<縁>があったのだと思う。

2002年、春。「幕張ベイタウン・コア」が開館します。22年前の<僕>と同じように将来この「コア」がきっかけでベイタウンの子供達の中からピアニストや落語家や映画監督や小説家が出るかもしれません。そんな<縁>が産まれる場所としての「幕張ベイタウン・コア」に期待しています。

## 幕張ベイタウンの我が家

大屋道夫（パティオス11番街、コア建築研究会）

拝啓 若葉の香りもさわやかな季節となりました。

さて、私共一家は、このたび千葉ニュータウンから幕張ベイタウンへ転居いたしました。旧居は丘の上の接地区型公園テラスハウスで、太陽と緑いっぱいの居住環境でしたが、新居は幕張新都心の沿道型借地権マンションで、ヨーロッパ風の街並み形成や日米建築家の共同作業による住宅設計などが特長です。田園育ちの親世代は白い梨の花咲く丘の上の郊外生活になじんでおりましたが、団塊ジュニアの子供世代はベイエリアのアーバンライフをエンジョイしているようです。

平成8年5月吉日

我が家は昨年5月に千葉ニュータウンから幕張ベイタウンに転居いたしました。幕張ベイタウンでも女性が元気で居住者のコミュニティ活動が大変活発です。今年6月の自治会の結成や幕張ベイタウンニュースの発行を中心に、交通委員会による車庫代わりの路上駐車や駅前広場駐輪自転車の一掃、コミュニティコア研究会・図書館研究会・コミュニティ放送研究会等の街づくり活動、あるいは居住者の主催によるリサイクルやヴァイオリンコンサートなど多彩な活動が展開しはじめました。私もごろ寝の休日からの脱皮を図れそうです。

平成9年秋

我が家の幕張ベイタウン生活は三年目を迎えました。街の景観も次第にその佇まいを整えはじめ、ベイタウンまつりや各番街(街区)の夏祭り等のコミュニティ活動も定着しつつあります。最近では女性だけでなく男達もコミュニティ活動に積極的に参加しはじめたようです。

平成10年秋

我が家の幕張ベイタウン生活は四年目となりました。この夏から街の玄関口の高層住宅街区の入居が開始され、一段と賑やかさを増してまいりました。コミュニティコア(公民館・図書館等)の建設も具体化するなど、街並が着々と整備されてきております。ベイタウンまつりや各番街(街区)の夏祭り等も定着し、おじさん達のコミュニティ活動もだんだんと板についてきております。

平成11年秋

我が家の幕張ベイタウン生活は五年目を迎えました。私はこの春から、11番街管理組合の副理事長を仰せつかり、夏祭りではビールと氷売りを担当いたしました。ベイタウンまつりや各番街(街区)の夏祭りが定着し、各種サークル活動も盛んで、今年ベイタウンシニアクラブが発足、シルバーパワーも元気です。中層住宅街に続き高層住宅街の入居や超高層棟の建設も進み、街の核となるコミュニティコア(公民館・図書館等)の着工も間近となるなど、街並みが着々と整備されてきております。

平成12年秋

我が街パティオス11番街の夏祭りは天候が心配されましたが、当日は晴天のお祭り日和で蓑原さん等居住者多数が参加し賑やかに開催されました。私と妻は今年も子供達に人気の氷売りとラムネ売りを担当いたしました。幕張ベイタウンは入居開始後七年目を迎え、中層住宅街＝パティオスに続き今年3月からベイタウン初の超高層棟＝シータワー(32階建・三井不動産等)の入居も始まり、戸数4,000戸・人口10,000人を超え、4月には、二つ目の小学校海浜打瀬小学校が開校するなど、街づくりが順調に進展しております。

一方、幕張新都心では、昨年10月に三井不動産のアウトレットモール＝ガーデンウォーク幕張、12月に仏大手スーパー＝カルフル、米会員制卸売店＝コストコなどの商業施設が続々と開店し、海浜幕張駅の近くが一段と賑やかさを増して参りました。

平成13年秋

私達一家が幕張ベイタウンに引っ越してきてからちょうど六年が経ち、今年七度目の春を迎えました。二人の子供達はすでに大学を卒業し、就職してこの街を離れ、それぞれの人生を歩み始めております。さて、この3月末にととも素敵なデザインで幕張ベイタウン・コア(ホール・公民館・図書館・子どもルーム)が竣工し、開館記念式典やコンサート、映画会、寄席、児童狂言、アイルランド料理講習会等、連日様々なイベントが開催されております。これからこのコアをコミュニティ活動やボランティア活動の拠点と

---

して、21世紀の幕張文化を育んで行きたいと居住者一同張り切っております。幕張メッセやマリンスタジアム等近くにお越しの節は是非我が街＝幕張ベイトウンにもお立ち寄りください。

平成14年4月吉日